

(1)保存地区の概要	(2)保存地区のあゆみ
地区名 高岡市金屋町	昭和57年度(1982) 「金屋町まちづくり推進協議会」の設立
種別 鋳物師町	昭和59年度(1984) 無電柱化・道路整備事業の開始
面積 約6.4ヘクタール	昭和61年度(1986) 無電柱化・道路整備事業の完了
選定年月日 平成24年12月28日	昭和62年度(1987) 金屋町まちづくり憲章の制定
<p>特徴</p> <p>金屋町は前田利長公が高岡開町に際し、砺波郡西部金屋から7人の鋳物師を招き、東西50間、南北100間の土地を与え、鋳物づくりを行わせたことに始まる高岡鋳物発祥のまちである。</p> <p>地区内は江戸期から昭和初期までに建てられた町家が密度高く残る。敷地は短冊形で、道路に面して主屋を建て、中庭をはさんで土蔵が建ち、さらに作業場が置かれる。作業場で火災が発生した際に主屋への延焼を防ぐための工夫である。</p> <p>主屋は真壁造りとし、切妻造平入で棧瓦葺きを基本とする。下屋庇は金属板葺や古いものでは板庇が残る。一階正面は出入口に格子戸や大戸を建て構え、開口部にはサマノコと呼ばれる格子を設けるものが一般的で、古いものには藪が残る。二階は袖壁を設け、長押、貫を化粧でみせる木部と、白い漆喰壁がコントラストをみせる。</p>	<p>平成9年度(1997) 「町なみを考える藤グループ」の設立</p> <p>平成21年度(2009) 保存対策調査の実施 ～23年度(2011) 保存対策報告書の刊行(3月)</p> <p>平成24年度(2012) 伝統的建造物群保存地区、都市計画決定『重要伝統的建造物群保存地区』選定(12月)</p> <p>平成25年度(2013) 修理・修景事業開始</p> <p>平成25年度(2013) 「金屋町元気プロジェクト(委員会)」の設立</p> <p>平成27年度(2015) 防災計画の策定開始 ～28年度(2016) 「防災計画報告書」の刊行(3月)</p> <p>平成30年度(2018) 移住・定住宿泊体験施設「さまのこハウス」完成</p>



(3) 保存地区の保存と整備

◆修理・修景、関連事業◆

平成25年度 修理5件、修景1件
平成26年度 修理8件、修景4件
平成27年度 修理3件、修景1件
防災計画検討開始
平成28年度 修理4件
防災計画報告書
刊行

平成29年度 修理4件、修景1件
平成30年度 修理1件、修景2件
令和元年度 修理2件、修景1件



[修理前]



[修理後]



[修景前]



[修景後]

(既存建造物修景)

(4) 保存地区の活用とまちづくり

◆保存地区内でのイベント等◆

前田利長公より拝領した土地や、多くの手厚い保護に対して報恩感謝の誠を捧げ、利長公の命日である6月20日に「御印祭」が開催される。



前夜祭では、鋳物師の作業歌“弥栄節”に振りをつけた踊りで町流しをし、約1,000人余りが参加している。

毎年9月に開催されている「ミラレ金屋町」



金屋町自治会、富山大学芸術文化学部、伝統工芸高岡銅器振興協同組合、富山ガラス工房、観光協会、商工会議所、市等が実行委員会のメンバーとなり、保存地区を舞台とし、工芸作品の展示・販売、お茶会、鋳物ワークショップ等を通じて、高岡鋳物発祥の地ならではの魅力を発信する催しを行っている。

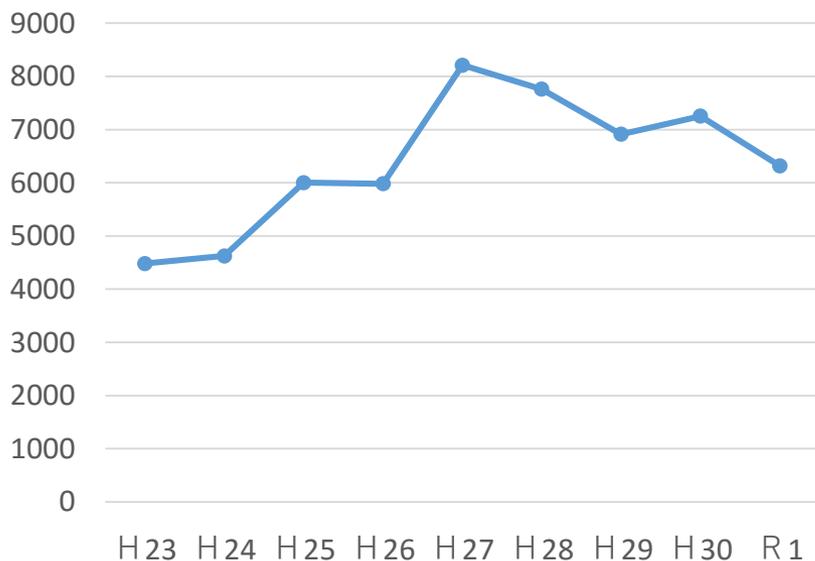
(4) 保存地区の活用とまちづくり

◆ 建造物の活用事例 ◆

市が空き家と土地を取得し、400年以上続く高岡の鋳物産業の歴史を知ることができる資料館として整備し、公開している。館内には、由緒ある古文書や初期の鋳造技術を知ることのできる鋳物製品、多種多様な造型・鋳造道具等、数多くの資料を展示してある。



◆ 高岡市鋳物資料館の入館者数 ◆



(5) 住民の取り組み

◆ 町なみを考える藤グループ ◆

保存地区都市計画決定以前の平成9年5月に設立。郷土を学ぶ学習会として、講師を招き講演会を開催し、観光ボランティアとして、町並み、鋳物資料館、登録有形文化財等の案内を現在も行っている。

地区内を紹介するパンフレット「金屋町七ヶ町散策マップ」を作成。また、新たにガイドを養成するための講座も行っている。
(藤グループ代表 50代女性)

◆ NPO法人金屋町元気プロジェクト ◆

金屋町元気プロジェクトは、世帯数の減少とともに空き家が目立つようになってきた金屋町で、“空き家所有者”と“空き家を住居や工房等に利用したい方”とマッチングさせるシステムを構築し、町内の地域コミュニティの担い手の確保・消費需要の拡大等により地域振興を図ることを目的として設立した。

平成28年に空き家となっていた町家を取得し整備を行い、平成30年5月に移住・定住宿泊体験施設としてオープンさせた。金屋町に移住・定住を目的として訪れる方に、一定期間、宿泊してもらい、住民と交流しながら、町の雰囲気を感じてもらえる施設である。

また、1階の一部はギャラリーとなっており、クリエイターの作品を展示し、観光客にも見てもらえる仕掛けもしている。

現在は地域コミュニケーションの場としての利用・活用も行いながら、空き家見学ツアーの開催、その他企画を開催している。
(金屋町元気プロジェクト事務局 60代男性)



[修理前]



[修理後]